

生産情報公表豚肉についての 生産行程管理者の認定の技術的基準

制定 平成16年6月25日農林水産省告示第1221号

改正 平成18年2月22日農林水産省告示第186号

一 生産及び保管に係る施設

1 生産に係る施設

次の条件に適合していること。

- (1) 生産に係る記録をする場所が、生産情報公表豚肉の日本農林規格（平成16年6月25日農林水産省告示第1219号。以下「日本農林規格」という。）第2条に規定する生産情報（以下「生産情報」という。）の記録をするに際し、他の記録と区分して行うのに支障のない広さ及び構造であること。
- (2) と畜場が、日本農林規格に従って生産された豚のと畜処理及びと畜に関する記録をするに際し、他の豚と区分して行うのに支障のない広さ及び構造であること。

2 保管に係る施設

- (1) 日本農林規格に従って生産された豚肉を、他の豚肉と区別して保管するのに支障のない広さ及び構造であること。
- (2) 生産情報の記録について、他の記録と区別して3年間保管するのに支障のない広さ及び構造であること。

二 生産行程の管理又は把握の実施方法

- 1 生産行程の管理（外注管理（生産行程の管理の一部を外部の者に委託して行わせている場合における外注先の選定基準、外注内容、外注手続等当該外注に関する管理をいう。）を含む。以下同じ。）又は把握を担当する者に、次に掲げる職務を行わせること。

- (1) 生産行程の管理又は把握に関する計画の立案及び推進
- (2) 日本農林規格第2条に規定する個体識別番号又は豚群識別番号に対応させて、生産情報を一元的に記録し、及びその記録を保管すること。
- (3) 生産行程に生じた異常等に関する処置又は指導

- 2 管理者（生産行程管理者の職員又は外注管理の受託者であって、豚の所有者その他豚を管理する者をいう。以下同じ。）に次に掲げる職務を行わせること。

- (1) 個体識別番号で管理した豚に係る豚肉にあっては、豚が出生した時に当該豚の管理者が当該豚の個体識別番号を表示した耳標その他の物体を遅滞なく当該豚に装着するか、又はそれと同等の個体を識別するための措置を行うとともに、やむ

を得ない理由がある場合を除いて、当該物体が豚から取り外されることのないよう、又はそれと同等の個体を識別するための措置が損なわれないよう管理すること。

- (2) 豚群識別番号で管理した豚に係る豚肉にあっては、30頭以内の群で当該群に属さない豚が混入しないよう管理すること。
- (3) 管理者が生産行程の管理又は把握を担当する者と同一の者でない場合にあっては、管理者において個体識別番号又は豚群識別番号に対応させて豚の個体又は豚群ごとに生産情報を記録し、生産情報の管理又は把握を担当する者に当該記録を確実に伝達すること。
- (4) やむを得ない理由により、個体識別番号を表示した耳標その他の物体が豚から取り外されたときは、これに代わって当該豚の個体を識別するための措置を生産行程管理者の指示により講じること。

3 生産情報の公表を担当する者に次に掲げる職務を行わせていること。

生産情報公表担当者は、生産情報を別記様式により個体識別番号又は豚群識別番号ごとに、とさつされた日から3年以上公表させること。ただし、個体識別番号又は豚群識別番号に対応する生産情報公表豚肉すべてが最終消費者に販売されてから7日以上経過したことを確認した場合にあっては、とさつされた日から3年を経過する前であっても、当該生産情報公表豚肉に係る生産情報の公表を取りやめることができる。

4 次に掲げる事項について、内部規程を具体的かつ体系的に整備していること。

- (1) 生産情報の記録、保管及び公表に関する事項
- (2) と畜処理に関する事項
- (3) 豚肉の保管及び出荷に関する事項
- (4) 年間の生産計画の策定及び当該計画の登録認定機関（登録認定機関又は登録外国認定機関をいう。以下同じ。）への通知に関する事項
- (5) 生産行程の管理又は把握の実施状況についての登録認定機関による確認等業務の適切な実施に関し必要な事項

5 内部規程に基づいて生産行程の管理又は把握を適切に行い、生産情報の記録及び当該記録の根拠となる書類を当該豚のとさつの日から3年以上保持するとともに、生産情報を当該豚のとさつの日から3年以上公表すること。

6 内部規程の適切な見直しを定期的に行い、かつ、従業員に十分周知することとしていること。

三 生産行程の管理又は把握を担当する者の資格及び人数

1 生産行程管理担当者の資格及び人数

生産行程管理担当者として、次のいずれかに該当する者が1人以上（当該生産行

程管理者が複数の生産に係る施設を管理し、又は把握している場合には、当該管理し、又は把握する生産に係る施設の数、分散の状況等に応じて適正な生産行程の管理又は把握を行うのに必要な人数以上)置かれていること。

- (1) 学校教育法(昭和22年法律第26号)による大学若しくは旧専門学校令(明治36年勅令第61号)による専門学校以上の学校で畜産に関する授業科目の単位を取得して卒業した者又はこれらと同等以上の資格を有する者で、畜産物の生産、生産の指導又は試験研究に1年以上従事した経験を有するもの
- (2) 学校教育法による高等学校若しくは中等教育学校若しくは旧中等学校令(昭和18年勅令第36号)による中等学校を卒業した者又はこれらと同等以上の資格を有する者で、畜産物の生産、生産の指導又は試験研究に3年以上従事した経験を有するもの
- (3) 畜産物の生産、生産の指導又は試験研究に5年以上従事した経験を有する者

2 生産行程管理責任者

- (1) 生産行程管理担当者が1人置かれている場合には、その者が生産行程管理責任者として、登録認定機関の指定する講習会(以下「講習会」という。)において豚肉の生産情報に係る管理又は把握に関する課程を修了していること。
- (2) 生産行程管理担当者が複数置かれている場合には、生産行程管理責任者として、生産行程管理担当者の中から、講習会において豚肉の生産情報に係る管理又は把握に関する課程を修了したものが1人選任されていること。

四 格付の実施方法

- 1 次に掲げる事項について、格付に関する規程(以下「格付規程」という。)を具体的かつ体系的に整備していること。
 - (1) 生産行程についての検査に関する事項
 - (2) 格付の表示に関する事項
 - (3) 格付後の荷口の出荷又は処分に関する事項
 - (4) 記録の作成及び保存に関する事項
 - (5) 生産情報に関する事項と表示方法の内容が対応することに関する具体的事項
 - (6) 登録認定機関による確認等業務の適切な実施に関し必要な事項
- 2 格付規程に基づいて格付及び格付の表示に関する業務を適切に行い、その結果、格付の表示が適切に付されることが确实と認められること。
- 3 豚肉に付与する個体識別番号又は豚群識別番号の伝達が適切に行われることが确实と認められること
- 4 生産情報公表豚肉の表示が日本農林規格第4条に規定する基準に従い、適切に行われることが确实と認められること。

五 格付を担当する者の資格及び人数

1 格付担当者の資格及び人数

格付担当者として、三の1の(1)、(2)又は(3)のいずれかに該当する者であって、講習会において生産情報公表豚肉に係る格付に関する課程を修了したものが1人以上（当該生産行程管理者が複数の生産に係る施設を管理し、又は把握する場合には、当該管理し、又は把握する生産に係る施設の数、分散の状況等に応じて適正な格付を行うのに必要な人数以上）置かれていること。

2 格付責任者

格付担当者が複数置かれている場合には、格付責任者として1人選任されていること。

別記様式（二関係）

個体識別番号	
出生の年月日	
管理者の氏名又は名称 管理者の住所 管理の開始の年月日	
豚の飼養のための施設の所在地 飼養の開始の年月日	
とさつの年月日	
豚の管理者の連絡先	
と畜者の氏名又は名称 と畜者の連絡先 と畜場の名称 と畜場の所在地	
管理者が給餌した飼料の名称	
管理者が使用した動物用医薬品の薬効別分類及び名称	

備考 二の2の(2)に掲げる豚に係る生産情報公表豚肉にあつては、この様式中個体識別番号を豚群識別番号とすること。